

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「健やかな心と体 夢に向かってみんなで学ぶ みたけの子」(太字斜字部 R4年度変更)
 ○学習の基礎基本を身につけ、自ら進んで考え、学び合い、より良く解決する力を育てます。(知)
 ○お互いを認め合い、あたたかい言葉掛けを大切にし、思いやりのある豊かな感性を育てます。(徳)
 ○健康な心と体を自ら育む態度を養い、安心安全への意識を高め、たくましく生きる力を育てます。(体)
 ○夢や目標を持ち、人や地域、社会に進んで関わり、社会の一員として自ら行動する力を育てます。(公)
 ○多角的な視点に立ち、持続可能な社会の実現へ向けたコミュニケーション能力、創造力、行動力を育てます。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈言語能力〉 〈問題発見・解決能力〉 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉	具体化した資質・能力
	1年:感じたことを言葉にする力、願いをもつ・好奇心、身近な事象に積極的に関わる態度 2年:身近な言葉の豊かさ、解決策を実行する力、自立的に考える 3年:伝える内容を明確にする力、問題を理解する力、他者を理解する態度・自己を理解する態度 4年:互いの考えの違いへの気付き、互いの考えの違いへの気付き、試行錯誤する能力 5年:事実等を解釈し、自分の考えを形成する力、観察する力、内省(振り返り)の習慣 6年:事実等を解釈し、自分の考えを形成する力、問題を認識する力、思いや考えを伝え合う力 個別:感じたことを言葉にする力、好奇心、自己理解

中期取組目標

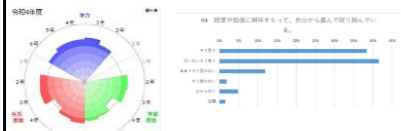
○「あたたかい学校」「誰もが安心して豊かに生活できる学校」「子どもも大人も、みんなで成長できる学校」にするために「チームワークとコミュニケーション」を大切にします。
 ・子どもの個性や多様性を大切にしたい個に応じた学び「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを推進します。
 ・「基本的な生活習慣」「きもちよいあいさつ あたたかいことば」をベースに、心のゆとりや安心感が持てるようにします。
 ・人と人とのコミュニケーションを積極的にとり、世界を広げ、社会とつながり、子どもの可能性を広げます。
 ・自分自身を見つめ、なりたい自分像を創り出す中で自己有用感を高め、自信をもって学校生活が送れる機会を増やします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①一人ひとりの実態をつかみ、基礎学習の定着を積み重ねたり学年で協働して学習方法や評価規準を明確にし、個に応じた指導の工夫をする。 ②授業研究テーマを『どの子ども「やってみよう」「考えたい」「伝えたい」と思える授業づくり』とし、どの子ども主体的に学べるような授業を研究し、学習意欲の向上を目指す。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

(1)令和4年度に実施した児童アンケートでは、学校の授業が分かり、学習内容が身につけているかという項目は、9割近い子どもが、「わかる」または「だいたいそう思う」と答えている。しかし、自分から進んで学習に取り組んでいるかという項目に対してはややその割合が落ちていた。また、「あまりそう思わない」と回答した児童は2割近くいることから、昨年度に引き続き「主体性」を目標に指導を行う必要があると考える。
 また、コロナ禍でコミュニケーションを取ることが難しい生活が続いたが、学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしているかという項目に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答がほぼすべての学年で8割を超えた。児童の前向きな気持ちをそのまま支援し続けるとともに、関わり合いの時間を更に充実させていく。



(2)昨年度、「主体的に学ぶ子どもの育成」をめざして授業づくりをすすめる、講師を招いての講義や、授業研究を行った。今年度も児童が学習のねらいを理解し、教科領域としての学びのおもしろさ「できた・成長した」を感じられることを目指した支援を重点研究の中心に位置づけている。同時に、個に応じた支援や学習方法の工夫など、一人ひとりが学習に向かえるように取り組んでいる。
 また、教科担当によるチームで学年に関わり、授業参観や事後研究会を相互に行うなどして授業づくりや授業改善に取り組んでいる。

今年度の目標

・主体的に学ぶ子どもの育成を目指し、どの子ども「やってみよう」「考えたい」「伝えたい」と思える授業づくりを行います。
 ・学習課題に対する自分の考えをもったり、伝え合ったりできるように、使える語彙を増やしていきます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
1年 どの学習においても教師と確認し合うことで、自分の思ったことや自分の気持ちを相手に伝えられるようにする。 2年 学習で出てきた言葉をノートに書き留めておくことで身近な言葉や身に付け、自分の思いを明確に伝えることができるようになる。 3年 協働的に行動する機会を多く設けることで、自分や他者の考えを安心して出し合えるようにする。 4年 ICT機器等を使って「思考の視える化」を行い、自分の考えと友達の考えを比較しやすい状況を作ること、友だちの意見を聞くことよきや自分の思いを積極的に発言することよきを理解できるようにする。 5年 学習したことの振り返りの習慣をつけ、自分の考えを文字などに表すことで、繰り返し思考することができるようにする。 6年 課題を明確に提示し、様々な資料や文献を活用した学習場面を設定することで、課題を正しく理解し、事実に基づいた自分の考えを形成できるようにする。 個別 一人ひとりの特性に応じた学習方法で取り組み、成功体験を積み重ねていくことで、自分や友だちの良いところに向け、よいところを伸ばすことができるようになる。	1年 自分で考えながら、自分の気持ちを相手に伝えられるようにする。自分の意見を発表するだけでなく、友達の発表に関しても耳を傾けようとする。 2年 身につけた言葉を言葉で発信することができるようにする。聞き入れた話から自分の考えをもつことができるようになる。 3年 問題を理解し、自分の考えをもつことができるようになる。安心して自分の考えを伝えるときも、他者の考えを聞く・認める態度を養う。 4年 自分と友達の思いや考えには違いがあることに気付き、それぞれのよきや価値を実感できるような姿を目指す。 5年 友達と意見を交換したり、自らが発言をしていく中で、相手の意見の中にある考えを表面に出てきた考えより深く考えることができるようになる。 6年 自ら課題を見つけ追究しようとするようになる。相手意識をもち、他者の視点を受け止めながら自分の考えをよりよくしようとするようになる。 個別 不得意なことにも挑戦し、友達のよいところを伝えることができるようになる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①自分や友達の良さを認め合い、主体的考え、よりよく課題を解決する力を養う。 ②全クラスの道徳科公開授業を年一回以上実施する。 ③異学年交流や人権・福祉の学習を通して、他者理解を深めたり、公平・公正接したりする子の育成を目指す。
担当	児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況

全体的には、お互いにあいさつし合う風土があり、児童会活でもあいさつ運動に取り組んでいる。高学年がお手本になってあいさつをする姿が見られる。

自己肯定感が高い子どもが多く、全職員が見守るあたたかい雰囲気の中で学校生活を送れているが、「みんなのこと教えてねアンケート」では、容姿のことを指摘するような発言があったり相手のことを考えていない言葉を言われていやだったという結果があった。道徳教育を中心にあたたかい言葉や思いやりについて子どもと考える時間をとり行動に移すようしてきた。

職員研修でも人権意識を高める取り組みをしている。本校は、学区が中里学園(児童養護施設)にあるので、お父さんお母さんという言葉を使わずに、お家の人と呼ぶなど、日常的に使う言葉も配慮している。

異学年交流や個別支援級の児童との日常的な交流を通して共生や思いやりの心を育てている。

今年度の目標

全教育活動を通してお互いを認め合い、あいさつやあたたかい言葉かけを大切にし、思いやりの心を育成します。

目標を実現するための具体的行動プラン

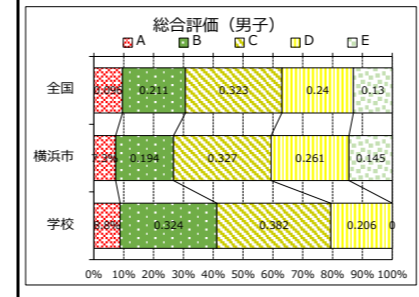
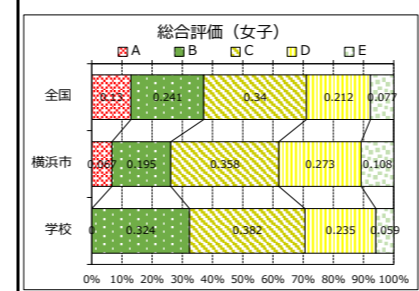
上半期	下半期
○特別の教科 道徳の充実 ・お互いの考えを共有したり、認め合ったりする活動を取り入れる。 ・自分ごととしての振り返りを大切に。 ・一人一人が安心して発言できるような雰囲気づくり、学級づくりをする。 ・年一回の道徳公開授業を全学級公開する。 ○思いやりの心の育成 ・生活目標「きもちよいあいさつ あたたかいことば」の実現のために、道徳の全体計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を意識した実践をする。 ・ペア学年交流や異校種交流を通して自他の違いに気づき、認め合いや思いやりの心を育くむ。 ○職員の資質・能力の向上 ・児童理解研修で定期的な配慮が必要な児童や対応方法を全職員が共有し、誰もが安心してすごせる環境作りをする。	○特別の教科 道徳の充実 ・色々な考えにふれることで、多角的・多面的に課題を解決する力を養う。 ○思いやりの心の育成 ・人権週間や福祉体験を通して、他者理解や共生について考える。 ・道徳全体計画をもとに上半期を振り返り、全教育活動を通して道徳教育を意識した実践をする。 ・子どもの社会的スキル横浜プログラムを実施するなど、意図的計画的に子どもの社会的スキルの系統的な育成を図る。 ・近隣の特別支援学校、児童養護施設等と連携し、多様な個性を尊重する素地を養うとともに、児童理解、児童支援の資質・能力の向上を図る。 ・児童についての引継ぎをしっかり行い、温かい配慮が必要な子を全職員が把握して、安心してすごせる環境作りをする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康安全に関する意識の向上を図ると共に、教室環境の整備や清掃指導を通し、自己やけがの予防に努める。 ②生活意識調査や体力テストの結果等を生かし、自己の体力を知り、進んで運動に親しむことができるようにする。 ③学校保健委員会の取組を日常の教育活動の中に生かすことで、健康な心と体についての意識を高めることができるようにする。 ④食の重要性を知り、自己の健康を意識して、進んで楽しい会食の場を工夫する。
担当	健康安全部

健やかな体に関わる本校の状況

下の表は、8種目の体力テストをすべて実施した場合、体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の男女別総合評価です。何れも、C評価以上の割合が横浜市全体より上回っていることが分かります。ただ、50M走や反復横跳びなどの種目で平均を下回る種目があり、瞬発力や敏捷性に課題があることが分かりました。



今年度の目標

健康な心と体を自ら育む態度を養い、安心安全への意識を高め、たくましく生きる力を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
◇運動の特性を明確にし、子どもたちが楽しみながら運動に取り組むことができるように、授業づくりを工夫していく。 ◇家庭科では、食事の大切さや、快適な生活の仕方を指導する。 ◇保健委員会では、校内での安全を高めるために、雨の日の安全な過ごし方や廊下での歩行のしかたを啓発する。 ◇新体力テストの結果をもとに、「巧みな動きや素早い動き、多様な動きを身に付けられる基礎を養うこと」をめあてとして、一校一実践の取り組みでは、短縄跳びと長縄跳びに取り組むこととする。 ◇各教科、領域等、学校生活の様々な場面を通して生命の尊さについて指導する。	◇子ども一人一人がめあてをしっかりともち、自分の力に合った場などを選んで、運動に取り組むことができるように指導していく。 ◇運動会。今までの体育科学習で身につけたことを発揮し、子ども一人一人がめあてをもって取り組むことができるようにしていく。 ◇学校保健委員会…児童・教職員・保護者・地域関係者が集まり、健康安全の保持増進について考え、実践に移すためにどうしたらよいか話し合う。 ◇保健委員会。正しい手洗いの方法を伝達し、徹底することで病気や感染症の予防を呼びかけたりする。 ◇総合的な学習の時間でも、健康生活や体力向上の実践に取り組めるようにする。